

花夫でのおさくさんと和女さんと共に往きませう、公判に於て齋藤さん調べを受けて其の場所で自分の犯した罪を少しも隠さず白状致して齋藤さんを助けませう、實に今まで齋藤さんの事諦らめる事の出来ぬ處からおまつを毒害して其後の齋藤さんの居處ろが知れなくなつたので十四年間諸方尋ねて歩いたが爲に旅藝人に附て此の英國中廻つて歩いたの並大休の事での御坐いません、どうぞ妾の心の中お察し下さい、何しろ妾も此通りの病人達者の者の通りお道中する事も出来ぬ誰かお頼んで釣臺を用意致して妾をヘルフワード村まで連れてつて下さい、何花の白状する事を承知致したおさくは心から惚れた齋藤さんの命さへ助けねといふ約束致し、好た男を諦らめたが何しろ齋藤さんの命さへ助けねば妾は何うでも宜いワイと喜んで是れより下宿屋の女房を頼みお花をヘルフワード村に連れ往く支度致しましたが愈々齋藤さん重罪裁判所の判決如何にあるか次回お上げやす

第 十 四 回

兼て申上ましたる通り我が英國に於て裁判の判決致しますのは判事のみの權に有す十二人の陪審官にあり陪審官は其の裁判限り喚出されて其の役言付かる者にて英國では一家の主人租税を拂ふ者おれば其多い少ないに拘はらず公民と見做し議員撰擧の權且つ陪審官もあるの權理を持って居るなれば十二人の者の中身分のあるか方或は又た身分の賤しい者も交ります裁判の調べ始めから終りまで謹しんで傍聴致し辨護及び檢察官の意見終り其の後裁判長陪審官の意見一應陳た其の上陪審官法廷より退り一の座敷に這入り此處で討論を開いて有罪であるか或は證據不十分お依て無罪であると云ふ事を議します決議致した後ち法廷に戻つて書記より質問受て決議致した事を答へ此の決議に依て判事被告に向つて宣告をする判事の方では是を有罪あるべき者と思つても陪審官の方で無罪とすれば直に本人に向つて無罪放免の言渡しをする

又た陪審官の方で有罪と云へば其の犯したる罪に依て懲役も死刑も宣告す今齋藤の調べ終り陪審官は一室に這入り此處に於て討論開けば書記室の錠を下し此の鍵判事預け置き決議が出来たといふ沙汰のあるまで陪審官相談致して居る座敷へ人が這入る事も出来ず又たは陪審官一人も其の座敷より出る事の出来ない嚴しい規則嫌疑者は小便が出来たいと云へば監守が付いて便所まで行く事を許しまするけれども陪審官は小便へ行かず水を一滴パンを一口も食ふ事のあらん嚴しい法律今日集まつた陪審官の内の紳士 甲皆さん今日の被告齋藤幸造罪のあるは無論ではないか何うぢや何も相談する事は無いではないか直有罪の決議して宜らうと頭墾しに我が言事を賛成せいと云はぬばかりに口を開いて言へば一人職人体のもの 乙「オイ、旦那頼むよ此所へ来て見れば上下は無いよ貴方が齋藤さん有罪と思ふか知らんが私は齋藤さん有罪といふ事は少しも胸に陥る外にも大勢居るに名よく

の話も聞かざると貴方の言ふ事を通さうといふは夫ア些と無理で御坐いませう皆さん何うです齋藤さん女房の死んだ時通たのを訝しいと思ふか知らんが私は又た其つは尤もだと思ふ此間天國が興行して居る時口は利かさいがお花は兩三度見ましたが随分剛さうな女だ宿屋の話聞いて見るにモ！天國と喧嘩する時中と負けさい大變者女房は是れ殺され此上居れば大變だぞん事になるか知れん一層の事面倒臭い直お立退た方が宜らうと齋藤が思つたのは尤もだ夫ばかりではおいおまつと云ふ女に惚れて夫を女房にした爲めに大旦那と仲が悪くなつて勘當のやうな成たがおまつが死んで仕舞へば自分一人りで家へ歸るのは面倒の事はさい親父さん今歸つて来たと言へばア！然うか俸おまつのこと事諦らめたらば歸つても宜いとも家へ歸るが宜いと二ツ返事で勘當が宥るおまつが死んだのが幸いお花お再び遇ふのは忌だと直お家へ歸つたのは當然だ何も恐ろしい怖いといふので逃たんぢやア有まゝい家へ歸

りたくなつてお花に遇ひたくないと自分の名前が齋藤といふことを人に知らしたくないゆゑに女房の死骸を其の儘お置て逃たらうと先づ私には思ふが皆さんは何うだ。と云へば一人が之を賛成すれば外の人が又た自分の考へを陳べ有罪といふ人が五分証據不十分として無罪とした方が宜らう若しも誤まつた議決をして罪のないものを絞罪にしては可愛想だといふ者が五分で一時間経ても二時間経つても決が取れず傍聴席に居る者も随分退屈のものだ午後四時頃裁判所の中最う己に薄暗くあり瓦斯を點なければならんと云ふ時分になつた時に一の婦人顔の少しも見えないやうに冠り物から顔の前を編を下げて裁判所の入口に参つて法廷へ這入らうと致しました番を致して居ります巡査 巡和女迎も中には這入れませぬよ最う人で一杯日本見たやうな傍聴人の數を極めて入れて呉れば此な混雜も去ないが英國で誰でも名刺一ツ出さなくても這入て宜い事になつて居る其の雜沓一通りではない和女迎も

這入れませぬ 婦左様で御坐いますか妾は裁判を聴きに参つたのでは御坐いません齋藤さんの代官人廣川先生に此の裁判の事に付て上たい事があつて参りましたが若も人が多くつて這入る事が出来なければ濟ませんがせうぞ廣川先生を喚出して下さいと頼みながら巡査に幾らかの金を手に握らせれば 巡査宜しう御坐います夫ではせうぞお待下さい廣川先生を喚びませうと人を押分けて中へ這入檢察官と話し致して居る廣川先生に對ひ 巡只今貴所へ遇ひたいと一人りの婦人が参りました 廣然うか誰だか名前を聞たい 巡エーッ名前を聞させん此村の者あれば私も皆な知てるが顔に編を下げて少しも容子が見えんから誰だか存せよ 廣せうも不思議だけれども事お據たらおきくぢやアないか兎も角も往て見やう……どうぞお免下され誰であるか一寸見て参らうと檢察官に斷つて是より戶外へ出て参りました さく「ア廣川さん何うで御坐いますまだ間合ひますかまだ調べの着ませんか

廣「フ、おさくさんで伊坐いますか最う調べの着きましたか陪審官どう
いふ決議にするか今其の最中でありすが然うして貴女何で伊坐いま
すさく」ハ「イ連れて参りましたよ 廣連れて来た……お花を連れて来
たかさく」然うで伊坐います妾しは昨日お花さんお遇つて話を承
知をさせたる故に少しも早くと思つて釣臺に乗せて参りましたが何し
ろ大病人の事故に途中で手間が掛つて此んなお遅くありましたが漸
只今連れて参りました妾くしは一足先へ参つたが最う直跡から来ます
廣「然う夫れで何うです全く白状いたして齋藤助けることを承知い
たしたか陪審官の決議未だ何うあるか解らんが若しもお花法廷へ於て
へ々な事を言ふと齋藤さんが助からんが私より若しも法廷へ出たら齋
藤と共に腹を合せておまつを殺したと言ひませうといつたがどうぢや
然ういふ事は大丈夫か若しも然ういふ事を言つたらば大變……さく」
イエ最う大丈夫で伊坐います悉皆と話を致して當人の方でも今まで誠

お不丁箇で伊坐いました悪う伊坐いました智さんお心配掛て濟あかつ
た少しも隠さず有体に言ひますからどうぞ連れて下さいと自分
から好んで妾と共に参りました少しも心配は御坐いません 廣「左様か
然なれば暫時お待下さい裁判長に此事を申上やうと法廷へ這入り書記
お此事を言ひ判事に告げて呉れと頼めば判事法廷へ出て座よ着き判
只今書記から承れば一の証人が参つたに依り之を調べて呉れといふ
事ぢやが檢察官の意見も聞き本官の考へも陪審官に申陳べ只今陪審官
に於て相談中だが裁判の終つた後は証據が出て其の事採用にあら
んど云ふ規則であるけれども罪なきもの誤まつて罪お陥すやうの事あ
つてもあらん夫のみならず陪審官が討論を開いてから己に二時間の餘
にあつて未だ決議の出来様子特別を以て只今申し出た証人の云事承
はらうと書記に向ひ、判陪審官残り是へ喚戻せと云へば判事の手よ
り鍵を受取り陪審官を迎ひに参れば長く相談して事の極らん其時お裁



判長より迎ひと聞て驚ろいて十二人の者法廷へ参つて座に着き暫く待
て居るとお花の釣臺に乗たるまゝ法廷の入口まで来たが人が多くて這
入れン故に掛りの役人の出入りする入口から這入て参りましたおきく
も夫と共に参り是より廣川先生に手を借り釣臺より下し椅子の上へ腰
を掛けさせれば判事お花お向ひ 判只今辨護人より承まはれば齋藤幸
造の女房おまつを謀殺した事お付て申上たい事があるといふ事ぢやが
其方名前は何と申す 花、ハイ私しは松本花と申まして伊太利の生れで
幼少い時お父に別れ母と共に此の英國へ参りまして幼少中から藝人に
なり只今リパプールに下宿致して居る者で御坐います 判左様か就て
はおまつ謀殺事件お付て其方存じて居る事があるか 花、ハイおまつを
殺したのには至たく私しで御坐います只今お調を受けて居ります齋藤さ
んは丸ではお關係御坐いません其譯は只今隠さずお話致しまするから
何うぞお聞下さい今から何年前か私も確乎記憶致して居りませんが倫

敦の劇場へ勤めて花子といふ藝名で役者になつて居りますと其の同じ
劇場に勤めて居るのが齋藤さん其時は榮三郎さんと申しました夫に其
の女房のおまつ二人とも心易いゆゑ深く交際して居ります中におまつは
酒ばかり飲で仕方がない齋藤さんは女房の爲に大變お困つて居ります
私も直傍に居る者故に始終齋藤さんの處ろへ参つてお菜を煮たり衣服
をたゝんだり夫との事致して居る内に昔様の前で申上るの恥かしう御
坐います齋藤さんの容貌の好い心の優しい親切の處に惚れア、齋藤
さんも斯ういふ大酒家の女房を持つて居ては困るだらうおまつがなけれ
ば齋藤さんも助かる夫ばかりではないおまつがなければ齋藤さんも私
を憎んでも居ないやうす私を女房よして呉れるだらうと考へ丁度其時
芝居で致して居りました昔し伊太利にあつた主人公が自分の女房を硝
子粉を飲せて殺す事の狂言此事から思ひ付て固より狂言の事で當よは
ならんが死ぬか死なな一ツやつて見やう若しも夫で死んで呉たらば

宜いと或る食物の中へ僅の硝子粉を交せて之を飲せば明る日おまつて腹が痛むとか苦しいとか云ふ事で遂に病氣にあり齋藤さんが醫者を呼んで女房を診察させれば酒を飲んだが爲に胃を刺撃されて腹が痛むだらうと云ひまゐたからア、宜い事をいつた醫者の方で胃病と見れば安心是から毎日少しツ、飲せれば今におまつ死ぬだらうと毎日く世話をする積りで参つては食物の中に粉を交て飲し遂におまつは死んで仕舞ひましたのが最う度と止さうか知らしやうかと思つた事もあるがおまつが死ねば齋藤さんと一緒になれると云ふ其の目的をうしても思ひ切る事が出来ぬと遂に只今上た事になりましたのが全たくおまつを殺したのは私で御坐います齋藤さんは此事を少しも知らしやうを齋藤さんを御免し成いまして其代り私を御處刑にあすつて下さいと病人が震へ聲にて此事を白状致しました判事初め數百人の傍聴人之を聞てお花の犯えた罪憎んでも其の當人のお花を不便と思ひし者一人もな

かつた判「夫でい今やまた事の眞正か全たく少まも嘘隠えいあいか齋藤と腹を合せ相談の上でおまつを殺えたのでいあいか 花「イエ然ういふ事は御坐いません齋藤さんに然る事話しても逆も承知せんと云ふ其の心を存じて居りまえた誰にも相談えたのではあいな私一人で謀ておまつを殺えてございますと檢察官より嚴ましく訊問されても言ふ事は少まも變らず答辨が濁らぬ齋藤が高山祐吉さんの處ろへ往て話えた事と少まも違はぬ裁判長は檢察官に向ひ 判「如何です只今此所に居る証人の申立た事に附て意見ありませるかど問へば 檢「更に是に附て意見ありませぬと答へ次に判事辨護人に向ひ 判「如何である之に就て辨護またき事あれば申立よと云へば廣川先生 廣「只今松本お花の言葉を聞けば被告齋藤幸造罪なき事明瞭なれば速やかに無罪放免といふ宣告あらん事を願ふと陳べ次に判事陪審官に向つて 判「陪審官一同只今お花の申立に付て檢察官も申事無ま本官も之に就て別段に異見もあければ

足下方の決議を俟て判決するのみ速かに議きて齋藤有罪か無罪か決ま
て呉れど云ひますれば十二人は席をも立たず 陪只今同僚中で少く
相談えたが此の席より下らんでも宜い決議が出来まえたと言ひますれ
ば 判左様か其の判決といふのは如何であると問はれて 陪各々同意
致ま至たく今日の裁判齋藤幸造に於て罪なき証據明かなるに依て無罪
と決まます判事之を聞て直ぐ齋藤に向つて 判齋藤幸造今日英國の法
律に従がひ英國國民十二名陪審の役言附け汝の有罪無罪の調べ致またが
陪審官の議決では罪なき事明瞭あるに依り無罪とまはより放免致す有
難く心得て退れど此の言葉を聞て其處に傍聴致して居る者一同裁判官
の前も憚らず裁判所の構内あるをも恐れずワアワツと云ふ聲を揚げ齋
藤君万歳といふ聲實に雷の如きでありまえたが齋藤は放免になつて是
より自分の家に戻りまえた

第 十 五 回

お花は監獄署の病院に送られまえたが或る日の夕方兼臺の上に寐て居
りまえたお花次第に臨終が近寄り今にも息を引取りさう容体醫者も
此上手の盡まやうがない寐臺の廻りには看病人耶蘇教師及び高山おさ
くの三人が看護爲ま今此世を離るゝといふ際に至つてお花は未來の事
を甚く感じ 花「噫モ！私の身体には望みのない重き罪を犯また者逆も
生きては居られない天帝の前に出ますれば必らず地獄に遣られる……
耶蘇教師の聲を擧げて 教「コレ女中氣を落すおよ天帝の情に限り、お
い基督様の何と云まえたか我を信する者決まて恐るゝ事勿れ罪を悔
で悔悟すれば必らず助かる即ち天國に遣て快樂させるといふ汝が犯ま
たる悪事罪科己に我に白狀致またれども尙外に言ふ事いかに忘れた
事いかに無ければ我れ尊き教會より受けたる權を持ち天帝に成り代
つて汝の罪の死を與へるが基督様此世を去る時自分の弟子共即ち
尊き教會に罪の死す權を渡まて汝等此世に於て死またる者天帝も之

を免すといふ言葉がある今汝の罪を罪すが故に安心せよと手には十字架を持ちお花に向ひ教會の免を與へれば當人之を受て少し安心致え花夫では教師先生導師の方で私の犯えたる罪を免して下されば此世を果ても天國に往れませうか 教「ハイ必ず往ける天帝に對して和女一心に祈んさい我れも共祈りまするけれども天帝に祈る時我れ人の罪を免す如く我が罪免し玉へと云ふ事經文の中にあるが人の事を意味に思ひ夫より害を受けたる事を心の中に免さず居れば又た自分の罪も免されん若も左様の事があれば今の中早く其念を拂つて此世の罪を颯張りと諦めて未來の幸福を祈るが肝要である 花「ハイ外に思ひ残す事の少しも御坐いません決して心の中誰も憎いと思ふ者はない誰も恨む事の御坐いませんけれども此所に居るおきくさんに對して詫あければならん事があります死ぬる前齋藤さんに最う一度遇たい何卒齋藤さん呼に上て下さいと云故直ぐ齋藤の許へ使を遣ると齋藤の急いで監獄署まで参ましてお花の寐臺の傍へ來り 齋「お花最う終つて此處で命を終るか噫斯あつたるも其方の心柄とい云ひながら誠又氣の毒お思ふお前も私の女房を殺し私お甚く迷惑を懸ましたが此方から其事を免し必らず其方が未來に於て樂の出來るやう祈りまするお花此世の事をサツパリと忘れ未來の幸福を祈らんければあらん宜いか 花「エー齋藤さん和郎お迷惑を懸けたのは誠お悪う御坐いませた和郎が來て免して下さると云ふ事を聞て安心致しました情の限りある人間私の事を免して下さる者おれば情愛の限りおき天帝又た私の罪を免して下さる安心を覺えまするが齋藤さん此間己におきくさんが私の處ろへ來て白狀して和郎を助けて呉れど頼んだ時おきくさんが私お向つて約束したか和郎聞きましたらうおきくさんの方では必らず和郎の女房おはあらない和郎に私の事を守らせると約束致した事と和郎聞きましたか 齋「アーお花夫も聞きましたがお安心なさい私し生涯女房を持ちません和女が私

を免すといふ言葉がある今汝の罪を罪すが故に安心せよと手には十字架を持ちお花に向ひ教會の免を與へれば當人之を受て少し安心致え花夫では教師先生導師の方で私の犯えたる罪を免して下されば此世を果ても天國に往れませうか 教「ハイ必ず往ける天帝に對して和女一心に祈んさい我れも共祈りまするけれども天帝に祈る時我れ人の罪を免す如く我が罪免し玉へと云ふ事經文の中にあるが人の事を意味に思ひ夫より害を受けたる事を心の中に免さず居れば又た自分の罪も免されん若も左様の事があれば今の中早く其念を拂つて此世の罪を颯張りと諦めて未來の幸福を祈るが肝要である 花「ハイ外に思ひ残す事の少しも御坐いません決して心の中誰も憎いと思ふ者はない誰も恨む事の御坐いませんけれども此所に居るおきくさんに對して詫あければならん事があります死ぬる前齋藤さんに最う一度遇たい何卒齋藤さん呼に上て下さいと云故直ぐ齋藤の許へ使を遣ると齋藤の急いで監獄署まで参ましてお花の寐臺の傍へ來り 齋「お花最う終つて此處で命を終るか噫斯あつたるも其方の心柄とい云ひながら誠又氣の毒お思ふお前も私の女房を殺し私お甚く迷惑を懸ましたが此方から其事を免し必らず其方が未來に於て樂の出來るやう祈りまするお花此世の事をサツパリと忘れ未來の幸福を祈らんければあらん宜いか 花「エー齋藤さん和郎お迷惑を懸けたのは誠お悪う御坐いませた和郎が來て免して下さると云ふ事を聞て安心致しました情の限りある人間私の事を免して下さる者おれば情愛の限りおき天帝又た私の罪を免して下さる安心を覺えまするが齋藤さん此間己におきくさんが私の處ろへ來て白狀して和郎を助けて呉れど頼んだ時おきくさんが私お向つて約束したか和郎聞きましたらうおきくさんの方では必らず和郎の女房おはあらない和郎に私の事を守らせると約束致した事と和郎聞きましたか 齋「アーお花夫も聞きましたがお安心なさい私し生涯女房を持ちません和女が私

ふ惚れ其の情愛の爲に罪を犯したのも只和女の悪いばかりであくお
まつのまだ生てる時私が和女を愛し優しい言葉を懸けたのが私の落度
其の償ひとして生涯他の婦人に關係せず和女の事を守りまする 花
「モ」其のお言葉嬉しう御坐いますけれども齋藤さん夫では私が濟ま
せん一旦然ういふ不了簡を出しましたが出来なく私が悪う御坐いま
あきくさん手を貸して下さいと言へば傍に居るおきく手を出してお花
の手を握れば 花「齋藤さん手を出して下さい」と云つて手を取り今では
最う力もあくあり自分の手を漸どの事で動かすんだがおきくの手と齋
藤の手を合せて 花「コレお二人さん私が死んだ後我が爲め一遍の回
向を唱へて呉れる者も無い依て更ふ兩人夫婦にあつてア、お花重き罪
を犯し馬鹿な事を致した悪い奴だが是も全たく情の爲めに斯ういふ事
になつた不便の者だと天國に於て罪を免され樂の出来るやうにぞうぞ
お兩人さん私の事を忘れずに祈つて下さい最早や後悔して死んで往く

私跡々まで詰らシ事を思つては愚といふ事を今初めて悟りましたと
うぞお兩人夫婦にあつて其の間に子供が出来たらば罪のない子供ゆゑ
に天帝に私の事を頼まして下さい又願ふは若しも女の子が出来たらば
お花といふ名前を附け我が事を忘れシやうおして下さいよと細き聲に
力を入れて 花「最う是で宜い他に思ひ残す事はないと心の緩みたるも
のか夫より忍ち人事を失ひ暫らく苦しんだが遂にお花は此世を果て何
れに往たかアノ世の事は知れシゆゑ全たく悪事を免されて天國に参つ
たが又たは重き罪を犯した其の爲めアノ世に於て罰を受けたか知らぬ
と息の留つたのを見て傍へに居つた者一同に聲を揚げ夫と祈禱終り涙
と共に其場より退つたが齋藤はお花の死骸を貰ひ受け立派な葬式を營
なみました茲で切ある罪の話柄畢ると云へば六ヶ月経た或日の朝九時
頃村中恰で祭禮のやうでした何れの者も美服を着飾り家の前へ作り物
をして何か目出度い事でもある様子耶蘇堂の鐘が鳴りますと何れの者

も急いで夫に向つて往く齋藤の家より一の馬車高山祐吉の家よりも同
じく馬車是は齋藤とおさくの結婚をする日にて教會の入口で一途にあ
り齋藤幸造におさく教師より婚禮の式を行つて貫ひ遂に夫婦の縁を結
びましたか兩人の行末はとういふ事になるかブラツタは賣卜者にあ
らず豫言する事は出来なければも兩人お互ひに惚合た夫婦中定めし末長
く中能く暮すであらう

切
な
る
罪
終

明治廿四年十月二十日印刷
同 年同月廿一日出版

罪 なる 切

有 所 權 版

編輯者兼
發行者

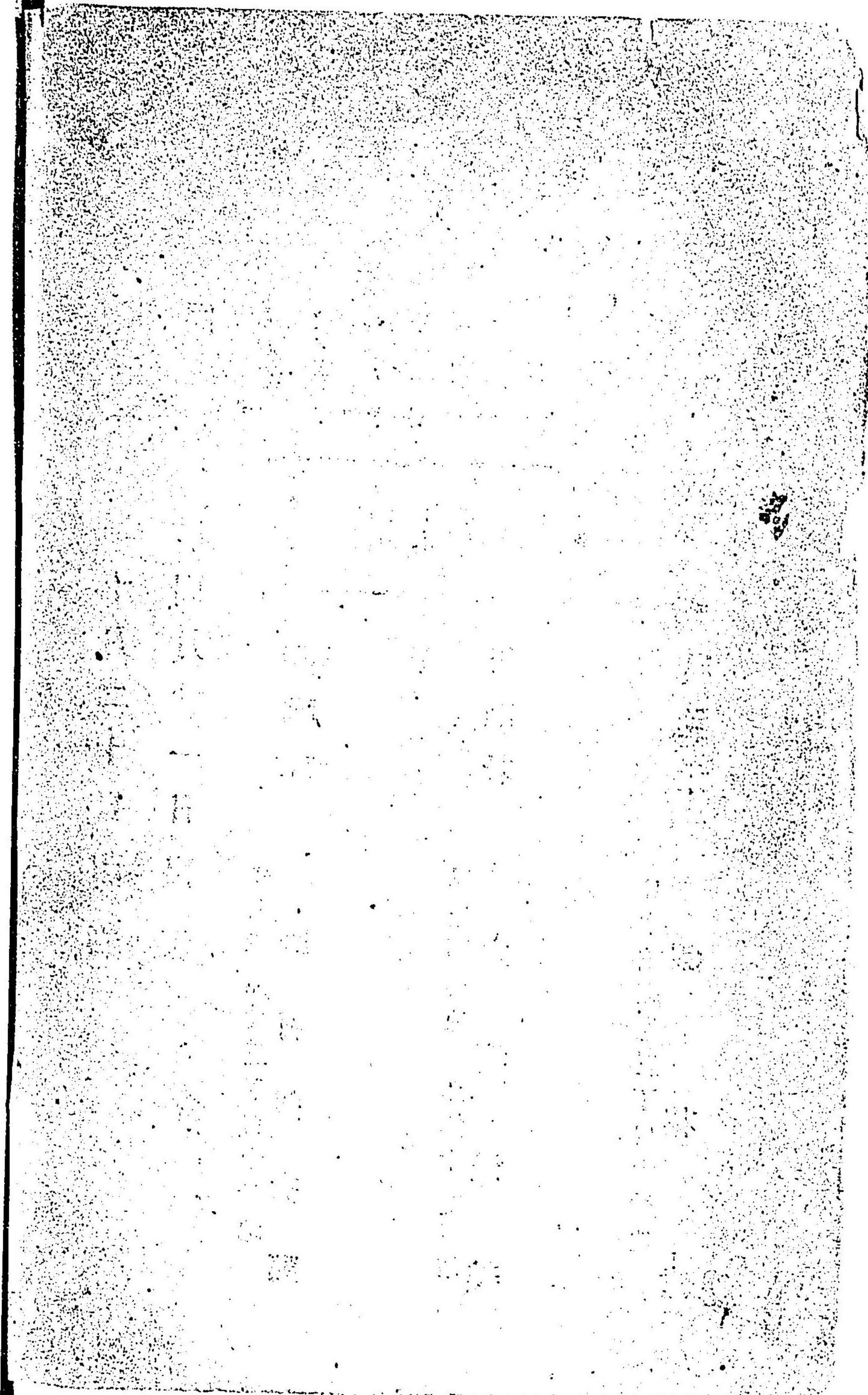
日本橋區通三丁目十番地
野村銀次郎

印刷者

神田區柳原河岸第十一号地
大場沃美

發兌元

日本橋區通三丁目十番地
銀花堂



特 11

535

098046-000-0

特11-535

切なる罪

快樂亭 ブラック/講演

M24

DBT-0282

